

界面活性剤であり、これと同じものが洗濯用の合成洗剤にも主成分として使われている。現在 A B S は、その催奇性や発癌物質の罹患生率を高める誘因となり易いということが問題とされているほかに、洗浄力を高める目的で配合されているリン酸塩が、川や湖の水の腐敗を助長するものとして問題になっている。

また、自動車をやめて、自転車で通勤するということも、自動車の便利さに慣れた人々にとっては、とても受け入れ難い提案であろう。

しかしながら「公害はいやだ。しかし便利さだけは失いたくない。」というのでは、余りにも身勝手すぎるのではあるまいか。人間は科学による人類の進歩を信じ科学の力で自然を開発、征服し、人間にとって快適な人工環境を作りあげていくことを夢みてきた。

しかしながら、その科学のもたらしたものは、バラ色の幸福でも、平和に満ちた楽園でもなく、地球が数億年もかかって作りあげた生態系の破壊であり、大気、川、湖、海、土壌といった環境の汚染であり、それに伴う

私達人間は、も早、これまでの生活を持続発展させつつ、健全な環境を保つことは不可能となった。

詩人ハイネは、「我々は、我々自身が廃墟とならないうちは、廃墟を理解しないのだ。」

と、言ったが、現代における廃墟とは、まさに水俣病イタイタイ病に代表される公害病ではないのか。

私達は今こそ、これまでの

「便利なことはよいことだ。」

といった安易な価値観を変え、自己中心主義と、利己的欲望から脱皮して、市民ひとりひとりが、自からの生活方法を変えることによつて、来るべき未来を汚染から守つてゆかなければならない

△ 医師 ▽